News Release

【発信】国立大学法人
富山大学総務部総務・広報課
(TEL)076-445-6028
(FAX)076-445-6063

平成 30 年 12 月 25 日

報 道 機 関　各位

帝王切開での出生と乳児期の便秘は関係が無い
（エコチル調査より）

富山大学附属病院周産母子センター センター長 吉田丈俊特命教授らのグループは、帝王切開と通常の分娩で産まれた子どもの便秘傾向を調べたところ、**帝王切開だったからといって便秘をおこしやすくなることはない**ことを「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」から明らかにしました。

これまで、帝王切開で産まれたお子さんの腸内細菌叢（そう）（腸内フローラ）は、通常の分娩で産まれたお子さんに比べて、菌の多様性に欠けるという報告がありました。また、慢性の小児便秘に腸内フローラが関与していることも知られていました。これらのことから、帝王切開で産まれたお子さんは腸内細菌の多様性が少ないことが原因となり便秘になりやすいという仮説を立て、エコチル調査に参加している約 83,000 人のお子さんを対象に 1 歳時の便通を評価しました。

このような大規模の人数で、小児の便秘の起こりやすさについて検討したのは世界初です。

この研究成果は医学系専門誌「BMC Research Notes」に 2018 年 12 月 12 日付で、オンライン掲載されました。

【発信】国立大学法人
富山大学総務部総務・広報課
(TEL)076-445-6028
(FAX)076-445-6063

研究の内容

帝王切開は、通常のお産ができない緊急の事態が起こった場合や、双児の出産などでも行われる外科的な分娩方法で、今や約2割弱のお子さんが帝王切開で産まれてきます。

これまで帝王切開にて産まれたお子さんの腸内細菌叢（そう）（腸内フローラ）は、通常の分娩で産まれたお子さんに比べて、菌の多様性に欠けるという報告がありました。子どもの腸内フローラは、お母さんの膣を通ってくる際に受け継がれるとされ、帝王切開で産まれた場合、この過程を経ないため十分な細菌を獲得できない可能性が示唆されています。

また、お子さんの慢性便秘の発生には、腸内フローラが関与していることも知られていました。これらのことから、帝王切開で産まれたお子さんは腸内細菌の多様性が少ないことが原因となり便秘になりやすいという仮説を立て、エコチル調査に参加している約83,000人のお子さんを対象に1歳時の便通を評価しました。

便秘は、多くの研究で使用されている「1週間に2回以下の排便」という基準で定義しました。その定義から、エコチル調査全体のお子さんで便秘と判定されたのは約1.4%ということがわかりました。イタリアでは17.6%、米国では5%という報告があり、これらと比較すると日本のお子さんは便秘の割合が少ないことがわかりました。

次に、帝王切開で産まれたか、通常の分娩で産まれたかに分け、便秘のなりやすさに差があるかを調べました。その結果、それぞれの群での便秘になったお子さんの割合に差はないことが明らかになりました。この結果は、在胎週数、出生時体重、母乳育児の状況、保育園通園の状況など、子どもの便通や生活習慣に関連すると考えられた16項目の影響を考慮し、かつ、約83,000人という大規模の人数で調べた信頼性の高い情報です。

本研究では、当初の仮説とは反対の**「帝王切開で産まれたお子さんが便秘になりやすいわけではない」**ということがわかりました。帝王切開でのお産は、お母さんやお子さんの体調が悪いといった理由で予期せず起こることも多いですし、通常のお産をした場合に比べ育児が困難に感じることが多いといった報告もあります。便秘自体は大きな病気ではありませんが、母親にとっては毎日の育児でとても気をもむポイントです。今回の結果から、帝王切開でお産したお母さんの心配事の１つが減る…ということが示せたのではないかと思います。

※本研究は、『BMC Research Notes』に2018年12月12日付でオンライン掲載されました。

Yoshida T, Matsumura K, Tsuchida A, Hamazaki K, Inadera H. Association between cesarean section and constipation in infants: the Japan Environment and Children's Study (JECS). BMC Res Notes. 2018;11(1):882.

News Release

【発信】国立大学法人
富山大学総務部総務・広報課
(TEL)076-445-6028
(FAX)076-445-6063

【「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」とは】

子どもの健康にどのように影響するのかを明らかにし、「子どもたちが安心して健やかに育つ環境をつくる」ことを目的に平成 22 年度（2010 年度）に開始された大規模かつ長期に渡る疫学調査です。妊娠期の母親の体内にいる胎児期から出生後の子どもが 13 歳になるまでの健康状態や生活習慣を 2032 年度まで追跡して調べることとしています。

エコチル調査の実施は、国立環境研究所に研究の中心機関としてコアセンターを設置し、国立成育医療研究センターに医療面からサポートを受けるためにメディカルサポートセンターを設置し、また、日本の各地域で調査を行うために公募で選定された 15 の大学に地域の調査の拠点となるユニットセンターを設置し、環境省と共に各関係機関が協働して行っています。

富山大学は、富山市、滑川市、魚津市、黒部市、入善町、朝日町を調査地区とする「富山ユニットセンター」として本調査に参加しています。

- 環境省「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」WEB サイト
  http://www.env.go.jp/chemi/ceh/index.html
- 富山大学 エコチル調査 WEB サイト
  d.u-toyama.ac.jp/eco-tuc/

（本件に関するお問い合わせ）
国立大学法人富山大学　附属病院周産母子センター
担当　吉田丈俊
TEL：076- 434-7313
Fax：076- 434-5029
E-mail：ytake@med.u-toyama.ac.jp
（取材対応窓口、詳細の資料請求など）
国立大学法人富山大学　総務部総務・広報課
TEL：076-445-6028
Fax：076-445-6063
E-mail：kouhou@u-toyama.ac.jp